31P-0940

ハイチ地震被災者支援～ドイツ赤十字フィールド病院での活動を通して

〇宮本　佳子[1]（[1]松山赤十字病院薬）

【概要】2010年1月12日のハイチ地震発生から7カ月後、8月11日から9月15日まで、日本赤十字社国際救援・開発協力要員として、ハイチ地震被災者支援事業に参加し、ハイチ共和国カルフール市のドイツ赤十字病院ERU（Emergency Response Unit：緊急対応ユニット）にて活動を行った。

【派遣先概要】2010年1月27日に開設した病院キャンプ。赴任時、多国籍要員約20名と現地スタッフ100名以上が活動していた。8月24日までの間に、外来患者総数51382名（1日約300名以上）、母子保健センター（MCH）患者総数7460名、手術件数1724件、分娩数1522件、予防接種人数8552人（モバイルクリニック含む）、死者314名。9月半ば、MCHを閉鎖した。

【目的】薬剤師・メディカルロジスティシャンとして、医薬品・資機材の管理、調達等を行う。

【活動内容】①薬局における在庫管理システムの構築。②現地スタッフへの医薬品管理方法等の指導。③安定した信頼できる医薬品供給ルートの構築に向けて、国際赤十字赤新月社連盟や、他社からの医薬品調達を通した、赤十字運動間の連携。他機関との連携と、寄付医薬品の受領。④医療要員への情報提供。

【結果・考察】活動の長期化や、税関の問題などにより、医薬品・医療資機材不足が深刻な中、ハイチ国内だけで医薬品を調達するのは大変困難であった。また、在庫管理は、要員が変わるたびに方法を変更するため混乱していたが、採用医薬品の削減と、シンプルな在庫管理システムの構築により、現地スタッフだけでも継続して管理が行えるようになった。医薬品のニーズの変化に対応できる、赤十字間共通の在庫管理ツールの作成、普及が必要である。